

中小企業における
生成AIの活用状況について
～ 「活用している」企業は2割弱も、「関心ある」は過半数
活用企業では「効果あり」が95.6%にのぼる ～

近年、企業における生成AIの活用は急速に広がっている。中小企業においても、業務効率化や生産性向上の観点から、活用の重要性が高まっているが、大企業と比較すると導入・活用の進捗に差が生じている可能性がある。

そこで、中小企業における生成AIの活用状況を把握するため、当金庫の取引先企業を対象にアンケート調査を実施した。

- 調査時点：2026年7月上旬
- 調査依頼先数：1,400社
- 調査対象：大阪シティ信用金庫取引先企業（大阪府内）
- 有効回答数：1,275社
- 調査方法：聞き取り法
- 有効回答率：91.1%
- (単位：社)

業種 \ 従業者	5人未満	5～19人	20～49人	50人以上	計	構成比 (%)
製造業	147	201	56	19	423	33.2
卸売業	38	69	15	2	124	9.7
小売業	85	37	8	3	133	10.4
建設業	103	113	18	6	240	18.8
運輸・通信業	15	46	19	9	89	7.0
サービス業	138	102	15	11	266	20.9
計	526	568	131	50	1,275	100.0
構成比 (%)	41.3	44.5	10.3	3.9	100.0	—

(注) 小売業には「飲食店」、サービス業には「不動産業」を含みます。

(要旨)

1. 生成AIの活用状況

「本格的に活用中」とした企業が 4.5%、「試験的に活用中」とした企業が 15.3%で、これら生成AIを「活用している」企業の合計(19.8%)は2割弱にとどまった。一方、「活用していないが、関心はある」企業が 53.8%と過半数を占めた。生成AIの導入はまだ限定的ではあるものの、今後の活用拡大に向けた関心の高さがうかがえる。

2. 活用している企業の実態

- (1) **活用分野**については、「文章作成・要約」が 66.8%で最も多い。次いで、「情報収集・分析」が 52.2%となっており、文書処理や情報整理といった用途での活用が中心となっている。
- (2) **活用範囲**については、「個人単位で限定的」が 52.2%で最も多く、次いで「特定の部署」が 26.1%となっており、企業全体で標準的に活用する段階にはまだ至っていないとみられる。
- (3) **活用効果**については、「大いに効果あり」が 21.3%、「ある程度効果あり」が 74.3%となり、これら「効果あり」とする企業の合計は 95.6%にのぼる。生成AIの活用は多くの企業で一定の効果を実感していることが明らかになった
- (4) **利用ルールの策定状況**については、「すでに策定済み」とする企業はわずか 7.1%である。これに対し、「現在策定中」が 21.7%、「今後策定予定」が 45.5%となり、合わせて 67.2%の企業が策定に向けた対応を進めている。

3. 生成AIを活用していない理由

「専門人材が不足している」が 46.6%で最も多い。次いで「必要性を感じない」が 37.6%、「使い道がわからない」が 29.3%で続いている。中小企業では、導入を進めるための人材確保や、導入への消極的な姿勢が生成AIの活用を妨げる大きな要因になっている。

4. 今後の活用意向

「しばらく様子見」とした企業が 43.3%で最も多い一方、「積極的に活用」(9.6%)、「限定的に活用」(8.2%)、「まずは試験的に活用」(19.9%)など、何らかの形で活用に向きな企業も合わせて 37.7%と一定数みられた。

1. 生成AIの活用状況

現在、生成AIを業務で活用しているかどうかについて、すべての企業に聞いた結果が第1表である。

全体でみると、「①本格的に活用中」と回答した企業が4.5%、「②試験的に活用中」とした企業が15.3%で、これら生成AIを「活用している(①+②)」企業の合計(19.8%)は2割弱にとどまった。一方、「③活用していないが、関心はある」とした企業は53.8%と過半数を占めた。中小企業では、生成AIの導入はまだ限定的ではあるものの、今後の活用拡大に向けた関心の高さがうかがえる。なお、「④活用しておらず、関心もない」企業は26.4%で、約4社に1社となっている。

業種別でみると、「活用している(①+②)」企業割合は、サービス業が27.1%で最も高い。

従業員規模別にみると、「活用している(①+②)」企業割合は、規模が大きいほど高くなっており、従業員が5人未満では11.4%であるのに対して、50人以上では56.0%となった。

第1表 生成AIの活用状況

区分 \ 項目		①本格的に活用中	②試験的に活用中	③活用ないが関心あり	④活用なく関心もない	計	(%) 活用している (①+②)
業 種 別	製 造 業	3.5	13.7	59.9	22.9	100.0	17.2
	卸 売 業	5.6	17.7	49.3	27.4	100.0	23.3
	小 売 業	6.0	15.0	41.4	37.6	100.0	21.0
	建 設 業	1.3	15.8	53.3	29.6	100.0	17.1
	運輸・通信業	3.4	7.9	58.4	30.3	100.0	11.3
	サービス業	8.3	18.8	51.1	21.8	100.0	27.1
規 模 別	5 人 未 満	3.4	8.0	49.2	39.4	100.0	11.4
	5 ～ 19 人	3.7	17.4	59.0	19.9	100.0	21.1
	20 ～ 49 人	9.9	24.4	56.5	9.2	100.0	34.3
	50 人 以 上	12.0	44.0	34.0	10.0	100.0	56.0
全 体		4.5	15.3	53.8	26.4	100.0	19.8

2. 活用している企業の実態

(1) 活用分野

前項1で、生成AIを「活用している」と回答した企業(全企業の19.8%、253社)に対し、主にはどのような業務で活用しているかを複数回答で聞いた結果が第2表－1である。

全体でみると、「①文章作成・要約」とする企業が66.8%で最も多く、次いで「②情報収集・分析」が52.2%となっており、文書処理や情報整理といった用途での活用が中心となっている。以下、「③社内文書の作成」(47.4%)、「④企画立案」(34.0%)、「⑤提案資料等の作成」(22.1%)、「⑥広告コンテンツの作成」(17.0%)と続いている。

現時点において、生成AIは業務の効率化や作業負担の軽減を目的に導入が進んでいると考えられる。

第2表－1 活用分野

(複数回答、%)

区分 \ 項目		①文章 作成・要約	②情報収 集・分析	③社内文書 作成	④企画立案	⑤提案資料 等作成	⑥広告コン テンツ作成
業 種 別	製 造 業	67.1	50.7	50.7	35.6	21.9	13.7
	卸 売 業	58.6	58.6	51.7	58.6	17.2	10.3
	小 売 業	60.7	50.0	32.1	42.9	25.0	39.3
	建 設 業	61.0	53.7	58.5	29.3	22.0	7.3
	運輸・通信業	60.0	40.0	60.0	40.0	0	0
	サービス業	76.4	52.8	40.3	20.8	26.4	22.2
規 模 別	5 人 未 満	80.0	41.7	33.3	26.7	18.3	16.7
	5 ～ 19 人	64.2	55.0	44.2	34.2	20.8	12.5
	20 ～ 49 人	64.4	55.6	66.7	40.0	31.1	24.4
	50 人 以 上	53.6	57.1	60.7	39.3	21.4	25.0
全 体		66.8	52.2	47.4	34.0	22.1	17.0

(2) 活用範囲

同じく前項1で、生成AIを「活用している」と回答した企業(全企業の19.8%、253社)に対し、社内での活用範囲について聞いた結果が第2表－2である。

全体でみると、「①個人単位で限定的」とした企業が52.2%で最も多く、次いで「②特定の部署」が26.1%となっている。一方、「③複数の部署」は7.5%、「④全社的」は14.2%である。生成AIの活用は、個人や一部部署での利用に限られており、企業全体で標準的に活用する段階には至っていないとみられる。

業種別でみると、「④全社的」に利用している企業割合は、運輸・通信業が30.0%で比較的高くなっている。

第2表－2 活用範囲

(%)

区分		項目	①個人単位で限定的	②特定の部署	③複数の部署	④全社的	計
業 種 別	製 造 業		52.1	35.6	8.2	4.1	100.0
	卸 売 業		51.8	27.6	10.3	10.3	100.0
	小 売 業		50.0	21.4	3.6	25.0	100.0
	建 設 業		56.1	26.8	9.8	7.3	100.0
	運輸・通信業		40.0	30.0	0	30.0	100.0
	サービス業		52.8	16.7	6.9	23.6	100.0
規 模 別	5 人 未 満		71.7	13.3	0	15.0	100.0
	5 ～ 19 人		56.6	22.5	6.7	14.2	100.0
	20 ～ 49 人		26.7	42.1	15.6	15.6	100.0
	50 人 以 上		32.1	42.9	14.3	10.7	100.0
全 体			52.2	26.1	7.5	14.2	100.0

(3) 活用効果

前項1で、生成AIを「活用している」と回答した企業(全企業の19.8%、253社)に対し、生成AI活用による効果について、どのように感じているかを聞いた結果が第2表－3である。

全体でみると、「①大いに効果あり」とした企業は 21.3%、「②ある程度効果あり」とした企業は 74.3%となり、これら「効果あり(①+②)」とする企業の合計は 95.6%にのぼる。一方、「③あまり効果なし」は2.0%、「④効果なし」は2.4%にとどまった。生成AIの活用については、多くの企業で一定の効果を実感していることがうかがえる。

業種別でみると、「①大いに効果あり」とする企業割合は、運輸・通信業(40.0%)と小売業(35.7%)でとくに高い。

第2表－3 生成AI活用の効果

区分		項目	①大いに効果あり	②ある程度効果あり	③あまり効果なし	④効果なし	計	(%) 効果あり (①+②)
業 種 別	製 造 業		16.4	79.5	1.4	2.7	100.0	95.9
	卸 売 業		17.2	72.5	3.4	6.9	100.0	89.7
	小 売 業		35.7	64.3	0	0	100.0	100.0
	建 設 業		14.6	80.6	2.4	2.4	100.0	95.2
	運輸・通信業		40.0	60.0	0	0	100.0	100.0
	サービス業		23.6	72.2	2.8	1.4	100.0	95.8
規 模 別	5 人 未 満		25.0	70.0	3.3	1.7	100.0	95.0
	5 ～ 19 人		18.3	76.7	2.5	2.5	100.0	95.0
	20 ～ 49 人		24.4	75.6	0	0	100.0	100.0
	50 人 以上		21.4	71.5	0	7.1	100.0	92.9
全 体			21.3	74.3	2.0	2.4	100.0	95.6

(4) 利用ルールの策定状況

前項1で、生成AIを「活用している」と回答した企業(全企業の19.8%、253社)に対し、生成AIの利用ルールやガイドラインなどを策定しているか、聞いた結果が第2表-4である。

全体でみると、「①すでに策定済み」とする企業はわずか7.1%である。これに対し、「②現在策定中」が21.7%、「③今後策定予定」が45.5%となり、合わせて67.2%の企業が策定に向けた対応を進めている。生成AIの利用ルールの整備はまだ途上であるものの、対応を進める企業は多い。一方、「④未定・予定なし」(25.7%)も4社に1社程度あり、企業間で対応状況に差がみられる。

第2表-4 利用ルールの策定状況

(%)

区分 \ 項目		①すでに策定済み	②現在策定中	③今後策定予定	④未定・予定なし	計
業種別	製造業	1.4	16.4	56.2	26.0	100.0
	卸売業	10.3	20.7	48.3	20.7	100.0
	小売業	14.3	21.4	35.7	28.6	100.0
	建設業	0	24.4	48.8	26.8	100.0
	運輸・通信業	10.0	10.0	60.0	20.0	100.0
	サービス業	12.5	27.8	33.3	26.4	100.0
規模別	5人未満	10.0	20.0	36.7	33.3	100.0
	5～19人	4.2	19.2	44.1	32.5	100.0
	20～49人	8.9	22.2	66.7	2.2	100.0
	50人以上	10.7	35.7	35.7	17.9	100.0
全体		7.1	21.7	45.5	25.7	100.0

3. 生成AIを活用していない理由

前項1で、生成AIを活用していないと回答した企業(全企業の80.2%、1,022社)に対し、生成AIを活用していない理由について、複数回答で聞いた結果が第3表である。

全体でみると、「①専門人材が不足している」が46.6%で最も多い。次いで、「②必要性を感じない」が37.6%、「③使い道がわからない」が29.3%で続いている。中小企業では、導入を進めるための人材確保や、導入への消極的な姿勢が生成AIの活用を妨げる大きな要因になっているようだ。また、「④セキュリティに不安がある」(24.8%)、「⑤正確性に不安がある」(22.8%)、「⑥社内ルールが未整備」(22.0%)とした企業も一定数みられ、生成AIの運用体制の整備が課題となっている様子が見えてくる。

業種別でみると、「①専門人材が不足している」とした企業割合は、製造業(53.8%)で最も高くなっている。

従業員規模別にみると、「④セキュリティに不安がある」とした企業割合は、規模が大きくなるほど高くなる傾向がある。

第3表 生成AIを活用していない理由

(複数回答、%)

区分		①専門人材が不足	②必要性を感じない	③使い道がわからない	④セキュリティに不安	⑤正確性に不安	⑥社内ルール未整備
業種別	製造業	53.8	33.8	31.2	23.2	23.2	24.4
	卸売業	43.5	46.7	22.8	32.6	27.2	22.8
	小売業	33.7	42.6	29.7	15.8	10.9	13.9
	建設業	48.1	40.2	29.6	22.2	24.9	24.3
	運輸・通信業	49.4	31.6	30.4	30.4	20.3	21.5
	サービス業	39.2	37.1	28.0	29.0	25.3	19.4
規模別	5人未満	38.6	44.8	27.8	17.9	18.4	16.8
	5～19人	52.5	32.9	31.1	29.5	26.3	26.3
	20～49人	56.5	27.1	27.1	34.1	25.9	23.5
	50人以上	54.5	22.7	31.8	36.4	31.8	36.4
全体		46.6	37.6	29.3	24.8	22.8	22.0

4. 今後の活用意向

最後に、すべての企業に対し、生成AIの今後の活用意向について聞いた結果が第4表である。

全体でみると、「④しばらく様子見」とした企業が 43.3%で最も多い。また、「⑤活用意向なし」とする消極的な企業も 19.0%あった。一方、「①積極的に活用」が 9.6%、「②限定的に活用」が 8.2%、「③まずは試験的に活用」が 19.9%となっており、何らかの形で活用に向向きな企業(①+②+③)も 37.7%と一定数みられた。中小企業における生成AIの活用は、現時点では慎重な姿勢が優勢であるものの、試験導入を含め今後の広がりが期待される結果となった。

従業員規模別にみると、「①積極的に活用」とした企業割合と「②限定的に活用」とした企業割合はいずれも規模が大きくなるほど高くなっている。

第4表 今後の活用意向

(%)

区分 \ 項目		①積極的に活用	②限定的に活用	③まずは試験的に活用	④しばらく様子見	⑤活用意向なし	計
業種別	製造業	8.5	7.3	20.1	46.6	17.5	100.0
	卸売業	12.1	8.9	19.4	35.4	24.2	100.0
	小売業	9.0	12.0	16.5	33.2	29.3	100.0
	建設業	5.8	8.8	19.2	48.7	17.5	100.0
	運輸・通信業	6.7	2.2	20.2	52.9	18.0	100.0
	サービス業	14.7	9.0	22.2	38.7	15.4	100.0
規模別	5人未満	6.1	6.5	15.2	42.7	29.5	100.0
	5～19人	9.5	7.9	22.0	47.6	13.0	100.0
	20～49人	18.3	11.5	29.0	33.6	7.6	100.0
	50人以上	24.0	22.0	22.0	26.0	6.0	100.0
全体		9.6	8.2	19.9	43.3	19.0	100.0

以上